

# nouvelle Fontaine

vol. 40

発行日 2013年7月25日  
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10  
岸和田市立自泉会館内  
TEL/FAX 072-437-3801  
Email:fontaine@sensyu.ne.jp  
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

## 文化の耕作者に



『上方芸能』発行人  
岸和田市文化振興審議会会長 木津川 計

『上方芸能』を出しながら編集部で言い続けてきたことは「背広を着た百姓になろう」であった。

差別的に「百姓」を使うのではない。ルナールの短詩「虹」が、「虹よ/百姓の/凱旋門よ」と名訳された、文学的修辞として使うのである。

カルチャーの語源が「耕す」であることは周知の通りだが、それになぞらえるなら、僕らは文化の消費者でなく耕作者になろう、それを編集部の姿勢にしたのである。

上方の伝統芸能を守り、発展させる、そのために100号まで編集の主眼を「伝統芸能の発展のために」に置いた。

実際、創刊した1968年の頃は高度成長のまっ只中、元気なのは漫才だけで、上方歌舞伎も文楽も喘ぎながら衰弱していたのである。

芸能人や関係者、行政の努力で伝統芸能は息を吹き返した。それに従い、101号から僕らは主眼を「芸能文化の広がる都市に」に変えた。

名優がいればこそ芸能が発展するように、名観客がいてこそ名優の働き甲斐はあるのだ。芸能文化を広げながら名観客をいっぱい生みだそう。

そんな考えで『上方芸能』は188号の今日に至った。大阪には出版が育たない。雑誌は姿を消すばかりで今や寥々りょうりょうになった。

なぜ雑誌が存続しないのか。一言でいうなら、儲からないからだ。だからつぶれる。それを見るからますます出す人がいなくなる。

概して上質で良心的な文化は貧しい。だから文楽は苦しく、オーケストラもオペラもバレエも楽ではない。『上方芸能』も貧乏と抱合せに継続してきた。だが、こういう文化が現にあるから大阪文化の土壤は瘦せっ放しにはなっていないと思う。

誰もが住む都市を愛したい。大切に守っていききたい。その都市や地域のすぐれた文化はことに大事にしていきたい。そのために鋤を握った百姓であらねばと思ってきたのだ。

このほど岸和田市文化振興条例が制定された。文化の振興は行政だけの仕事ではない。条例が絵に画いた餅にならないためには、市民もまた振興の一役を担うのだ。

だんじり祭りを守ってきた熱意で、伝統的文化だけでなく、市民的文化をも生み出し、育てる。そのための耕作者であってほしい、と僕は願っているのである。

# 岸和田文化事業協会

平成25年度

# 定時総会を開催



総会風景

5月25日に岸和田文化事業協会平成25年度定時総会を、来賓や他団体の代表の方々のご参加もいただき岸和田市立自泉会館で開催しました。

松本則子会長は「岸和田文化事業協会が、岸和田の文化の「格」を創る団体になるよう努めていきたい」と挨拶を行いました。

来賓の出口副市長から自泉会館の指定管理者としての事業協会へお褒めの言葉をいただくとともに、「より充実した街づくりのため総合的な文化振興条例を制定した。文化の裾野を広げる活動をお願いしたい」という野口市長の祝辞を代読していただきました。

次に大阪文化団体連合会事務局長金森重裕氏は、文化先進都市金沢市を例に引き、「子供の未来のために、文化を形として見える活動の必要性・自らが文化を語る努力が大切」と祝辞を述べられました。

また、来賓として浪切ホール指定管理者の江口JTBチーフプロデューサー、岸和田市の西川企画調整部長、大西文化国際課長がご臨席くださいました。

次に三田忠雄氏を議長に選出し、議案の平成24年度事業報告、同決算報告、監査報告、平成25年度事業計画(案)、同予算(案)、そして役員改選(案)が全て承認されました。会場からは「次代を担う子供たちが生の演奏に親しめるよう出前演奏会などを考えてほしい」旨の要望が出されました。

2部では「岸和田煉瓦から自泉会館まで～山岡伊方と寺田甚与茂・甚吉の

足跡～」というテーマで、本協会副会長の西念秋夫氏と行龍男氏による講演会を開催しました。

その後、懇親会と続き、総会は無事終了しました。(紙野陽子)

## 平成25・26年度役員名簿

役職	部会	氏名
顧問		伊藤 伸史
会長		松本 則子
副会長		西念 秋夫
副会長		行 龍 男
専務理事	※総務・財務経理	真下 豊光
理事	総 務	吉垣内 利光
常務理事	※企画事業	角野 芳子
理事	〃	赤井 裕子
理事	〃	池上 尚里
理事	〃	岡本 和子
理事	〃	小 島 恵
理事	〃	加藤 久美子
理事	〃	黒木 幸子
理事	〃	齋藤 憲子
理事	〃	堺 靖 師
理事	〃	佐々 由佳里
理事	〃	セルパンス堺 多恵
理事	〃	寺本 郁子
理事	〃	中村 八千代
理事	〃	宮前 勝代
常務理事	※広 報	和田 正則
理事	〃	小島 栄子
理事	〃	齒黒 猛夫
理事	〃	藤田 保平
理事	〃	本郷 元子
常務理事	※会 員	山田 広美
理事	〃	大植 英夫
理事	〃	小木曾 由季
理事	〃	金丸 晏子
理事	〃	大門 旗一郎
理事	〃	中川 登史宏
理事	〃	橋野 澄子
理事	〃	平瀬 有里
理事	〃	吉川 敬子
監事		紙野 陽子
監事		松端 孝元

※部会長(各部会五十音順)



寺田甚吉氏

## 地方財閥の祖 ②

## 「寺田甚與茂から甚吉へ」

前回、近代資本主義の元となる、金融機関、第五十一国立銀行の設立について述べた。甚與茂氏はその後、殖産産業としての紡績業の設立を考えていたが、その頃の岸和田の状況は、明治16年の大干魃・明治17年の台風の襲来・明治18年の梅雨の大雨、大洪水等々の天災が岸和田の住民を疲弊させた。岸和田の浜では窮民を救うため炊き出しが行われるほどであった。甚與茂氏は、生活の基盤である職を与えることが最優先であると考え、金納源十郎他5名の協力を得て、明治20年に「第一煉瓦製造会社」を設立する。その後明治26年に「岸和田煉瓦株式会社」に社名が変わってからも、社としての窮民授産に努め、最盛期には千人を超える従業員をかかえていた。

煉瓦事業が一段落した頃、長年の夢であった紡績事業に乗り出すが、出資者が集まらず苦労する。当時の出資者と云えば、素封家・酒造業者・木綿問屋等々で限られていた。岸和田で11名の協力者を得るがそれでは足りず大阪まで協力者を募り、ようやく明治25年11月、25名の発起人で立ち上げ、明治27年1月、資本金25万円、株主259名で岸和田紡績を開業する。

その後、甚與茂氏の的確な判断で業績はうなぎ登りに向上する。資本金も、明治28年に50万円、明治30年には、100万円、開業9年で織機も9倍に膨れあがっていた。岸和田紡績の特徴として、他社と比べ配当金が高かったと云うことである。たとえば、明治36年以降3～4割の配当、時には第1次世界大戦後など数年は8割の配当をしていたこともあった。

時代の先頭を走っていた甚與茂氏であったが、大正時代に入ると、仕事さえあればよいという時代からより豊かな労働環境が要求される時代に入ってくる。紡績業に限らずすべての職種にわたって、その波が押し寄せてきた。岸和

田紡績も大小の争議がおこる。その中でも、大正12年と昭和4年の争議は、岸和田紡績を揺るがせた。各方面からの協力・企業努力により、なんとか乗り越えていくことができた。

昭和初期の岸和田紡績の規模は、全国的に見て10大紡績に入る規模になっていたが、ただ創業者の思いで、幹部には、現場からたたきあげた給仕や職工を重点的に採用し、各部所には専門の学校出身の専門家は一人か二人おればよい方で技術革新の波に遅れがちであった。さすがの甚與茂氏も時代に追い越されそうになってくる。その状態を救ったのが、嫡男である「甚吉」氏である。彼は、東京の早稲田大学を大正9年に卒業、大正12年には早くも岸和田紡績の取締役に就任している。大正9年下期以降、業績が下降し始めた状況を踏まえ、現場の改革に乗り出す。古い機械や機構・工場は廃止の方向を打ち出していく。改革の途中であったが、寺田甚與茂氏が昭和6年ついにこの世を去る。78歳であった。故人の遺志により、岸和田市に供養として「教育基金」50万円が寄付される。ちなみに当時の岸和田市の年間予算は40万円を切っていた。岸和田紡績からの故人への功労金をもとに甚吉氏は、「自泉会館」を岸和田紡績の迎賓館・交流館として昭和7年に設立する。

その後の第51銀行は、国の施策により、昭和15年に阪南銀行へ、昭和20年住友銀行に合併される。

岸和田紡績は、昭和16年大日本紡績株式会社と合併される。

鉄道部門については、南海電鉄の創業時から関係していた。甚吉氏は、昭和8年から昭和19年まで南海電鉄の社長を務める。昭和15年に阪和線を合併し南海山手線とするも、昭和19年に山手線は、国に譲渡し国鉄となる。その後南海鉄道は、関西急行鉄道と合併し近畿日本鉄道になるが、昭和22年独立し、南海鉄道となる。

甚吉氏は、昭和17年～18年まで岸和田市の名誉市長になり活躍し、退任に際して、自泉会館を岸和田市に寄贈した。

昭和21年～22年まで貴族院議員を務める。昭和22年9月財閥指定を受け、解体される。地方財閥として明治以降、岸和田市を中心に活動してきた寺田氏は、ここに財閥という冠を外すことになる。



建設当時の自泉会館ホール

歩いて岸和田のよさを知る

# 岸和田慢歩

第11回 「稲葉バス停から上稲葉バス停までの稲葉町内を歩く」

## 岸和田慢歩 MAP

### ①稲葉バス停

スタートは南海バス稲葉バス停から

### ②牛神

鳥居をくぐって、すぐ左にある牛神の祠

### ③大門坊極楽寺

「奈良七賢人」の一人である智光上人、54歳のとき建立と伝えられる、元、神宮寺。明治初年の神仏分離令によって廃絶となったが、昭和30年に再建。

### ④菅原神社

元は「稲庭の里」と呼ばれ、産土神として春日社であったが、文明10(1478)年に、地域の郷土・稲葉元春が稲葉城築城と同時に、京都北野天満宮から勧請。境内の社叢は市の天然記念物。

### ⑤稲葉城址

菅原神社の本殿西背後が城址とされる。稲葉元春によって築かれたとされる。天承8(1580)年、石山本願寺に味方をして織田信長と戦い、信長の根来攻めに際し、紀州へ応援に出た留守に攻められ落城。民家も多数焼失したと伝えられる。城址とされる土塁の前には小さな祠が並び、地域独特の「玉石」も祀られている。

### ⑥宮橋

牛滝川にかかる、稲葉の村と菅原神社をつなぐ橋。



④菅原神社



⑤稲葉城址



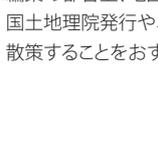
②牛神



④菅原神社



③大門坊極楽寺



⑥宮橋

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。  
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、  
散策することをおすすめします。

至牛滝

ゴール

⑬上稲葉バス停

⑫地蔵尊

⑪山の神・足の神

⑩牛久保橋

⑧榎の木

⑦薬師堂跡

⑨地蔵堂

⑤稲葉城址

④菅原神社

③大門坊極楽寺

①稲葉バス停

スタート

山滝地区公民館

菅原神社碑

牛滝街道

井坂酒造

稲葉町交差点

至久米田

かつて戦国武将の居城があった稲葉町内は、多くの遺跡が集約している地域でもあります。また、豊かな緑にも恵まれ、散策にはうってつけともいえるでしょう。今回は夏の暑さも忘れさせてくれる、短距離でも十分に楽しめるコースを紹介します。

理事 藤田保平・齋黒猛夫

#### ⑦薬師堂跡

現在は廃されているが、かつて薬師堂が建立されていた。鎌倉時代末期、南北朝時代に建てられた3基の宝篋印塔は市の有形文化財。

#### ⑧榧(かや)の木

薬師堂跡に立つ榧。市の天然記念物。

#### ⑨地藏堂

元は道端にあったものが移設されたと考えられる地藏堂。この地藏の後ろにも玉石が祀られている。

#### ⑩牛久保橋

通称「ウシャクボ橋」。永禄5(1562)年3月の久米田合戦の際、畠山・根来の連合軍に敗れた戦国武将・三好実休の将兵が、この場所で落命。それを哀れんだ土地の人々が、武者供養したのが「ウシャクボ」となまったといわれている(応仁の乱のときという説もあり)。

#### ⑪山の神・足の神

ご本体は丸い石で、神体山である神於山から転がり牛滝川の流れて丸くなったものといわれている。これを「玉石」といい、菅原神社や薬師堂跡の地藏堂ほか、牛滝川沿いの各地で崇拜の形が見られる。だが、津田川沿いの集落では、このような習慣は存在しない。

#### ⑫地藏尊

山の神・足の神と道を挟んで向かいにある地藏尊

#### ⑬上稲葉バス停

ゴールの上稲葉バス停。

元の道を歩き、民家と民家の路地を右に曲がると「牛久保橋」が架かっています。橋を渡らず元に戻り、道なりに歩いていくと右手に「山の神・足の神」。左側には「地藏尊」が祀られ、その角を左折し、幹線道路に入って左折すると「上稲葉バス停」に到着します。

高低差はあるものの、さほど困難な道のりでもなく、民家の立ち並ぶ路地は交通量も少なく安全。濃い緑を眺め、耳に心地よい川のせせらぎを聞きながらの散策は、心が豊かになるひと時を楽しめます。

本殿の左側には小さな祠が並び、背後の土塁が「稲葉城址」とされている場所です。神社を出て急な坂を下ると「宮橋」があり、そこを渡って右側の坂を上ると、しばらくして「薬師堂跡」が右手の広場の片隅にあります。薬師堂の横には「榧の木」がそびえ、奥には「地藏堂」が祀られています。

スタート地点は南海バスの「稲葉バス停」。そのまま幹線道路を海側に下り、稲葉町の交差点を左に曲がり、酒造所の前を歩いて牛滝川にかかる「下橋」を渡ります。

橋を渡ると左側にうっそうとした森が見えてきます。ここが「菅原神社」の境内で、左に曲がって坂を下り、鳥居をくぐったすぐ左にあるのが「牛神」の祠です。参道を進むと、右側にあるのが「大門坊極楽寺」。右手には神木となっている巨木がそびえ、周囲も木々と緑に覆われていて、夏の暑さを忘れさせてくれます。多くの巨木に囲まれた拝殿と本殿は厳かな雰囲気漂わせ、感動すら与えてくれるでしょう。

## 岸和田 あ・ら・か・る・と

農学博士 平松 和子

### 包近の桃

(かねちかのもも)



桃は中国の黄河上流の高原地帯原産で、文明以前に栽培化され「邪気を圧伏し百鬼を制す」仙果として中国では大切にされてきました。

日本に古くから伝わり、弥生時代の遺跡から桃の種がたくさん出てきます。古事記の上つ巻、黄泉の国の鬼に追われたイザナギの命が、ヨモツヒラ坂の桃の実で鬼を撃退した話や、万葉集に桃の花を詠んだ歌などがあります。が、日本のおいしい桃の歴史は明治維新後に入ってきた上海・天津の水蜜桃に始まり、明治32年に岡山県で育成された白桃が最初の品種です。それ以前は実が小さく、甘くない桃でした。

包近で桃の栽培を、いつ誰が始めたか判りませんが、大正初めには作られていました。名産地になるまで努力と工夫を重ね、受け継ぎ、伝えてきた人々の、伝統の知恵と汗と、「包近へは嫁にやるな」と言われた桃農家の嫁の涙の結晶が「包近のおいしい桃」です。

夏を代表する桃の完熟果の味いは格別ですが、傷みやすいので硬めの桃が売られています。室温で追熟させてから冷水で洗い、手で皮をむき、果汁が滴りとりけるような桃を戴きます。

毎日行列ができ入手困難ですが、包近桃選果場で、採れたての桃が買えます。6月10日から8月初めまで。お勧め品種は、紅色が美しい白鳳(7月中～下旬)と瑞々しい清水白桃(7月下旬～8月初旬)です。

東日本大震災被災地お見舞い人形劇公演記  
**灯火(クラルテ)を掲げて!**



公演の様子

人形劇団クラルテ

高平 和子

17年前の阪神淡路大震災の時も同じでしたが、被災地に心の復興の為に人形劇を届けるのは震災時から、かなりの時間が経過しなければいけませんでした。

受け入れ側の皆さんと共に準備を進めて、約1年後の2012年2月の半ばに宮城県仙台市の近郊の町に行くことができました。海岸の全ての松の木はなぎ倒され、田んぼの真ん中に大きな船が横たわり、その光景は地震と津波の被害の大きさを物語り、身動きができない程でした。現地の方のお一人、お一人の当時の体験のお話が胸に染みこみ、子どもたちは、怖かった体験を遊びで吹っ飛ばそうと、開演前に津波ごっこをしているのでした。生活環境の復旧、復興も進まない中で必死に生きる現地の皆さんの前で人形劇を上演させて頂き、「クラルテの光を消さないように頑張ってください！」と逆に励まされたのは私達でした。

その後、8月に岩手県宮古市にての公演ができました。宮古市の町の中はかなり整備され新しい建物が目立ちました。お世話になった宮古子ども支援事業の方は「私達はこどもを真ん中に於いて復興させたい！こどもの文化事業を沢山取り入れていきます」と人形劇場の構想を聴かせてくださり、ここでも感動させられ

ました。国も行政も子どもを真ん中に全てを司っていたらどんなにいいだろう。

東日本大震災から早2年が過ぎました。まだ、行方不明者は多数おられ震災関連で亡くなる人も後を絶たず、避難生活を強いられている方が30万人という状況を思うと、復興のために私達人形劇団クラルテもできることを続けなければいけないと思います。今年はクラルテ創立65周年、東北復興を願って、手塚治虫原作「火の鳥～黎明編」全国縦断公演を実施することも私達にできる支援の一つです。東日本大震災を忘れずに、これからも被災地公演を初め、大阪から、全国の上演先から支援を続けていきます。



なぎ倒された松の木

# Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。  
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

## 東日本大震災復興 チャリティコンサートin jisen

平成25年3月20日(祝)午後2時～

東日本大震災の被災者に対する復興支援のため、協会の理事等によるチャリティコンサートを自泉会館ホールで実施し、59人の入場者がありました。  
また、当日の入場料収入や寄付金等92,762円全額を公益財団法人若手県高校教育会館奨学金事業に寄付をさせていただきます。

〈皆さんの声〉

- ◆被災地の復興が遅々として進まない状況に怒りが募っています。福島原発は終息していないというのが実感です。ノーギャラで出演した皆さんに敬意を表します。
- ◆1曲ずつ演奏前に解説して頂いてよくわかりました。チャリティーコンサートというのも素晴らしいと思います。
- ◆素晴らしい演奏で良かったです。東北の方も勇気づけられたのではないかと思います。
- ◆心が通いあって素晴らしい演奏でした。音楽は人の心を癒してくれます。この素敵な音楽が被災された人々の心に届き、勇気と希望を与えて下さいます様に願っています。



〈皆さんの声〉

- ◆蓄音機の性能の良さにびっくり。でも浪花節はこの場にふさわしくない。
- ◆蓄音機で聴くレコードの音は、暖かみがあって素敵です。
- ◆こんな素敵な場所で、珍しい催しをしているとは知りませんでした。レトロな気分になりました。
- ◆偶然通りかかり、レコードコンサートを鑑賞させていただきました。レトロな建物で、レトロな音楽を聴き、ゆったりと素敵な時間を過ごすことができました。
- ◆洋曲を入れてあるのでバラエティに富んで良かったです。曲が古いので、解説を少しいれて欲しいと思いました。



## 蓄音機を使った昭和初期の レコードコンサートVol.5

平成25年3月27日(水)午後1時30分～

昭和初期にアメリカで製作された蓄音機とSPレコードを使ったコンサートを自泉会館ホールで実施し、22人の入場者がありました。

## 第34回自泉フレッシュコンサート ～春風にさそわれて～

平成25年4月19日(金)午後7時～

ギターとソプラノのコンサートを自泉会館ホールで実施し、59人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ◆きれいな声とギターは素晴らしかった。感動して涙が出ました。
- ◆このような催しは、21世紀に羽ばたく青年たちにとってすごく良い機会であると思います。また、名前もフレッシュコンサートと良いネーミングだと思います。明るい気分になります。今日の二人も益々努力をされ、成長されて各自の目標に向かい頑張ってくださいと思います。
- ◆若い方々の頑張っている姿は嬉しいです。
- ◆目の前で、優しい音色のギター、美しい歌声、幸せな時を有難うございました。
- ◆初々しいお二人の一生懸命の演奏で、本当に心和む春の宵でした。



## 会員対象事業 「大正琴を奏でてみよう」

平成25年5月28日(火)午後1時30分～

橋野理事に講師をお願いし、大正琴にチャレンジしました。

〈皆さんの声〉

- ◆すぐに音が出るので、弾いていて楽しかったです。また、先生がとても優しく教えて下さりわかりやすかったです。
- ◆初めての経験、楽しむより一杯一杯でした。
- ◆初心者でも、すぐに弾くことができ、きれいな曲に触れることができました。

## 岸和田ゆかりのソリストを集めてvol.5

朗読&音楽「森は生きている」 平成25年6月16日(日)午後2時～

岸和田ゆかりの音楽家で、第一線で活躍されている先生方の演奏会を自泉会館ホールで実施し、71人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ◆とてもあたたかい気持ちになれるコンサートでした。
- ◆こんなに座の劇を観たことがあり、懐かしく参加しました。劇を思わせるような素晴らしい朗読、それを引き立てる歌や演奏がとても良かったです。映像もあって、大人だけではなく、子どもも感動できるものだと思います。小学校を回って見せてあげると、喜ばれるのではないのでしょうか。
- ◆たった4人だけの朗読と演奏でしたが、オペレッタを観ているような内容の濃さで、それぞれがとても素晴らしかったです。
- ◆大変興味深く聴かせていただきました。朗読のあるコンサートは珍しいですが、親しみやすく最後まで楽しく聴くことができました。原本を変えていましたが、聴き易く、しかも格調を下げることなく素晴らしかったです。これからも、楽曲だけではなく、このようなコンサートがあれば嬉しいです。



## 第35回自泉フレッシュコンサート ～緑の風にさそわれて～

平成25年6月29日(土)午後6時30分～

ピアノ、チェロ、ピアノデュオのコンサートを自泉会館ホールで実施し、61人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ◆平和の有り難さ、音楽の持つ力を感じました。
- ◆若い人が音楽を通して成長するのは楽しみです。
- ◆蒸し暑い日々に、素晴らしい演奏で爽やかな気分をさせていただきました。
- ◆バラエティに富んでいて、大変良かったです。迫力があって大変楽しませていただきました。
- ◆初めて聴く曲や耳慣れた曲があり、若い方々の演奏はとても良かったです。また、来たいと思います。
- ◆チェロとピアノの演奏が素晴らしかったです。

# 岸和田文化事業協会の事業 Information

三館(浪切ホール・マドカホール・自泉会館)合同事業

## 岸和田能

アマチュアによる「吉野天人」

日時:平成25年10月18日(金)午後7時開演

会場:杉江能楽堂

出演者:オーディションで選ばれた方々

入場料:無料(事前申込)

【お問い合わせ】

岸和田能開催事務局(浪切ホール内)

TEL:072-439-4915 担当:江口、近松

営業時間:10:00~21:00

休館日:毎月第3月曜日とその翌日。敬老の日の前3日間

協力:公益財団法人 大槻能楽堂

※詳しくは、浪切ホール機関紙「ナミナミ」8月号をご覧ください。

## 第37回自泉フレッシュコンサート ～秋に思いをよせて～

日時:平成25年10月27日(日)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:浦瀬安希子(ピアノ)

奥永 亜矢(ソプラノ)

安田 亜由・山口 恵里佳(ピアノデュオ)

入場料:一般前売1,200円(当日200円増)

会員前売1,000円(当日200円増)

## 岸和田能 秋の名曲を観る会

## 能「巴」の上演とお話

日時:平成25年10月25日(金)午後7時開演

会場:杉江能楽堂

出演者:赤松禎英ほか能楽協会大阪支部会員

入場料:一般前売3,500円(当日300円増)

会員前売3,000円(当日300円増)

協力:公益社団法人 能楽協会大阪支部

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## 文化情報

### 2013子ども演劇祭inきしわだ

日時:平成25年8月7日(水)～11日(日)

会場:岸和田市立浪切ホール各会場

入場料:プロ作品 前売1,500円(当日300円増)

アマチュア作品 無料

主催:子ども演劇祭in岸和田実行委員会

問合せ:TEL072-437-3456(岸和田おやこ劇場)

※詳しくは、チラシまたはホームページをご覧ください。http://www.sozosha-net.jp/kishiwada-fes/

### 平瀬バレエアートスタジオ定期発表会

日時:平成25年8月10日(土)

午後2時30分開演

会場:岸和田市立浪切ホール大ホール

入場料:無料

主催:平瀬バレエアートスタジオ

問合せ:平瀬バレエアートスタジオ TEL072-432-7527

### プチ・フォルマ(岸和田美術の会 絵画小品展)

日時:平成25年9月6日(金)正午～午後5時

7日(土)午前10時～午後5時

8日(日)午前10時～午後5時

会場:岸和田市立自泉会館展示室

入場料:無料

主催:岸和田美術の会

問合せ:岸和田美術の会事務局(あまの) TEL072-445-1070

平成25年度(平成25年4月～平成26年3月)

## 会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的としています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円

家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円

(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。

郵便振込の場合は

口座番号 00970-9-28145

加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。  
TEL/FAX 072-437-3801  
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

nouvelle  
**Fontaine** vol.40

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2013年7月25日

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

和田正則・小島栄子・齒黒猛夫

藤田保平・本郷元子

## 編集後記...

4月、岸和田市では文化振興条例が制定・施行されました。記念のシンポジウムでは、木津川 計氏が「仏を作って魂を入れるのが大切」の言葉を通して、地域で文化を育てていく事の大切さを強調されました。

「百花繚乱」一 優れた人物や素晴らしい業績・作品などを紹介している岸和田文化事業協会は、これからもその推進力になり積極的に町づくりに貢献していきたいものです。(小島)

http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

岸和田文化事業協会

検索